地域を巻き込む UNESCO-SCHOOL 2021

北海道教育大学附属釧路義務教育学校
校　長　内　山　　隆
担　当　齊　藤　貴　文

１　趣旨　本校の ESD の特徴

本校では，教育活動の総合的な学習の時間と道徳，宿泊的行事を一体に捉えた平和教育を推進するなど，主体的な活動を中心に据え，ESD と SDGs を双方から考えた教育活動を進めている。そのねらいは，他人との関係性，社会との関係性を意識付けることにより「関わり」「つながり」を尊重できる個人を育むことにある。また，SDGs として掲げられている目標達成に向け，中学生が主体的に取り組める活動として，ユニクロと連携し，難民地域への服の提供の取組を通して考える機会を設定した。これもまた，SDGs の観点から，他者への意識や関係を考えることによって，ESD を実現しようとするねらいがある。

今年度はコロナ禍によって宿泊研修地の変更を余儀なくされたことから平和教育について重点化することができなかったが，地域について SDGs の視点で取り組むことを中心に据えた，総合的な学習の時間をブラッシュアップすることを通して，ユネスコスクールとしての活動を実践してきた。

２　活動・全体計画（概要）

５月	総合的な学習の時間「釧路マスタープラン」スタート
６月	服のプロジェクト出前授業&活動開始（推進プロジェクトチーム結成）
７月	服のプロジェクト地域への呼びかけ開始
	総合的な学習の時間「釧路マスタープラン」フィールドワーク
８月	服のプロジェクト回収
９月	フェスティバル（学校祭）において地域より服の回収
１０月	参観日等での服の回収の呼びかけ
	総合的な学習の時間「釧路マスタープラン」地域の方へ中間発表
１１月	参観日等での服の回収の呼びかけ，発送
１２月	総合シンポジウム開催　地域への提案

３　活動事例

これまで同様，本校が取り組んだ活動の中心は生徒の主体的な取組であり，今年度は大きく２つの取組を実施した。

＜SDGs の視点を取り入れ，「地域学」を中心に据えた総合的な学習の時間の展開＞

本校では前期課程より地域を見つめて自分の考えを発信する「くしろ学」から始まり後期課程では「釧路再発見（地域の見つめ直し）」「釧路パワーアクション（地域人からの学び）」「釧路マスタープラン（地域への発信）」を通して地域を学び発信する活動を行っている。その中で第９学年による「釧路マスタープラン」では地域の現状と SDGs を関連させながら課

題を見つけ，その解決策を構想し提案する一連の流れを計画・実行することができた。生徒は SDGs の視点から地域を見つめ続け主体的に課題を捉え，その課題を解決するために調査活動を行い，解決策を提案する学習を実施し，12 月の総合シンポジウムでは地域の方に改善案を提案し，意見をもらうことができた。

総合的な学習の時間の交流

フィールドワークの様子

中間報告にて、アドバイスを受ける

シンポジウムに向けて準備

シンポジウムでの全体発表

地域の方との意見交流

＜学校と地域が連携した難民地域への古着を提供するボランティア活動＞

今年度，ユニクロと連携し，出前授業を実施した上で，本校生徒に呼びかけをしてボランティア推進委員約 30 名を中心に，全校生徒で SDGs の 1 貧困を泣くそう，10 人や国の不平等をなくそう，12 つくる責任つかう責任，17 パートナーシップで目標を達成しようを意識した活動を実践してきた。

推進委員は，広報活動計画を立て，実際に近隣の施設への訪問，そして校内への呼びかけを行い，地域をはじめとする多くの方に対して SDGs の視点から持続可能な開発および持続可能なライフスタイルについて示し，古着の収集の協力を得ることができた。

6 月に実施した出前授業では、ユニクロから講師をお招きし SDG s の視点から活動の意義や意味を学びました。
新聞にもその様子は取り上げられ、全校一丸となった取組を目指し、プロジェクトチームを編成しました。

子供服 難民に届け
ユニクロ 附属生徒、活動に理解

今年度のフェスティバルでの取組。フライヤーを作成し、全校生徒で配布し地域に協力をお願いしました。フェスティバル当日は、生徒玄関に大きく掲示をし、たくさんの服を回収することとなりました。後日確認したところ 1106 枚もの服が集まり、生徒も活動内容の充実を味わうこととなりました。

夏休み中にポスターや協力していただく幼稚園やユニクロさま用にダンボールを作成。協力期間は 3 週間程度でしたが、たくさんの服を回収していただきました。学校と地域が協力することによって、生徒は一人ではできない大きな成果が生まれることを実感していました。回収後、メンバー全員で数え、2228 枚の服を確認し、無事発送することができました。HP のブログにも活動内容を掲載し地域の皆様にも発信しています。

【以下生徒の感想の一部】

・学校と地域が一丸となって何かをなすというのはとても大切なものだと感じることができた。

・世界の困っている人のために活動するのは初めてで，頑張って助けられる活動に取り組めるのが嬉しかった。釧路のたった一部だけで約 3，000 枚も集まってこんなに協力してくれることが嬉しかった。

・私は将来発展途上国のサポートを通じて国際的に貢献したいです。特に立場の弱い子供や女性のための活動をしたいと思っていますが，今回は私がそう思う気持ちを後押ししてくれました。

4　成果と課題

コロナ禍が継続する 1 年において，当初予定していた活動は十分できない面もあったが，ユネスコスクールの実践意義を踏まえた活動を可能な限り実践してきた。本校の特色として学校の中に閉じるだけではなく，釧路地域と学校，企業（ユニクロ）と学校のように，地域を巻き込む形において生徒たちの自主的な活動を行えたことは大きな成果ととらえている。

しかしながら，宿泊的行事のやむを得ない変更に伴って，平和教育について十分広がりをもつことができなかったことは課題であり，次年度なんとか状況が改善し，少しでも実践できることが ESD の視点からも有意義であると考える。

次年度は教育課程の見直しを行う中で，今年度以上に活動の見える可や教育活動全体における ESD の取組の位置づけを明らかにしていくことを計画している。他地域の諸活動を参考にしながら，次年度もユネスコスクールとして活動を継続していく。

メールアドレス
kus-fuchukyo@k.hokkyo dai.ac.jp